

明治二  
年八月  
慶應義塾  
新議

113  
909





113  
909

STP  
202

明治二  
年八月

慶應義塾新議

明治二十二年



特  
413  
909

辛八月  
眼  
二

慶應義塾新議



慶應義塾新議

本年は春我慶應義塾を開き一有志の輩四方より集り數月を出てぞして塾舎百余人の定員既満て今年初夏の頃より通ひ來學せんとする人までも講堂の狭きゆへ以て断り居せり由て此度い又社中合せ汐留奥平候の屋鋪中より明きたる長屋を借用し假に義塾出張の講堂とあり生徒の人負と限りを教授の行届くたけ勉て初學の人と導んとせり決せり日本國中の人商工農士の差別あり洋學を志し人者來り學ふべし



一入社の式ハ金三兩を拂ふ也  
 一受教の費ハ毎月金二分ヅ、拂ふ也  
 一盆と暮と金千匹ヅ、納むべし  
 但し金を納るゝ水引のしと用ひべし  
 一此度出張の講堂ハ講書教授の場所のそりて眠食の部屋ふし遠國より来る人ハ近所へ旅宿をべし随分手輕し滞留をへき宿も有るべし  
 一社中へ入るところ者ハ芝新錢座慶應義塾へ來り當番の塾長と謀るべし  
 一義塾讀書の順序ハ大畧左の如し

社中ニ入り先づ西洋のいろはと覺へ理学初歩  
 狀又ハ文法書と讀む此間三月と費す  
 三月終て地理書又ハ窮理書一冊と讀む六の間  
 六月と費す  
 六月終て歴史一冊と讀む此間又六月と費す  
 右何れも素讀の教を受くしそりて大底洋書と讀む味も分り字引と用ひ先進の人へ不審を聞けバ銘々思々の書をも試し讀むべくむつたり  
 き書の講義を聞ても随分其意味を解るべし先  
 此れを獨學の手始とす且又會讀ハ入社後三四



月よて始むひきりて大ニ讀書の力以増をべし  
右の如く三月と六月と又六月よて一年三月か  
り決して此間ニ成學をもといふは何れも勿  
論人々の才不才も何れとも大凡おれきて中等  
の人物と經驗したる所を記せしものなり獨見  
も出来翻訳も出来教授も出来次第ニ學問の上  
達をもよ從ひ次第ニ學問ハ六ツクありしもの  
よて真ニ成學したる者としてハ慶應義塾中一人  
もおし恐らく日本國中にも洋學既ニ成れり  
といふ人物ハ何れもすく唯深淺の別何れものニ

一學費ハ物價の高下よ由て定め難しされども先  
米の相場を一兩よ一斗と見込ニ此割合をこれ  
ハ仮令ひ塾中ニ居るも外ニ旅宿するも一月金  
六兩よて月俸月金結髪入湯筆紙の料洗濯の賃  
までも拂ふて不自由なるべし但し飲酒ハ一  
大惡事士君子なる者の禁とべきりのふれば其  
入費を留意せよハ勿論かれども眞肉を喰ふ  
ざれば人身滋養の趣旨ニ戻り生涯の患を遺そ  
ハと何れも折々ハ眞類獸肉を用ひ度ものか  
り一月六兩よてハ連も肉食の沙汰よ及ひ難し



一年百兩ありて十分ありべし  
一入社の後學業上達して教授の負よ加ふるべき  
ハ其職分の高下ニ應じ塾中の積金を以て多少  
ニ衣食の料を給ふべし生徒より受教の費を出  
さしむるハ此れ等の為あり

一洋書の價ハ近來誠に下直なり且初學ハハ昏類  
の入用も少く大畧左の如し

- 理學初歩 價一分一朱
- 義塾讀本文典 價一分
- 和英辭書 價三兩二步

地理書

窮理書

歴史

- 一部より
- 貳兩より
- 四兩まで

右より初學より一年半の間ハ不自由なり此外  
に價八九兩よりなり此英辭書一部を所持せし  
最もよし

明治二年  
己巳八月

慶應義塾同社 誌



# 慶應義塾蔵書目録

西洋事情	初篇	三冊	上方の偽版三四様有り
同	二篇	三冊	既方今も偽本と賣買せり
同	外篇	三冊	
西洋旅案内		二冊	此れも偽版二三様有り或ハ事情次第もど偽書り
同	外篇	一冊	
條約十一國記		一冊	これも偽版二様有り
西洋衣食住		一冊	例の如くの本の賣買盛なり
華英通語		一冊	偽本沢山



英文熟語集	一冊	
雷銃操法 初篇	一冊	此卷は從一偽版の導り他の
同 二篇	一冊	例論右同
同 三篇	一冊	様論右同
洋兵明鑒	五冊	既脱稿
室扶斯新論 醫書	二冊	
窮理圖解	三冊	
天變地異	一冊	
英議事院談	二冊	
萬國一覽 袖珍	一冊	

英文典	一冊	
博物新篇補遺	三冊	
旗章說畧	一冊	
清英交際始末	二冊	
英軍艦刑法	一冊	
頭書 世界國盡	六冊	脱稿
大成 錢穀出納表	一冊	脱稿
西洋 各國	一冊	脱稿
生產道案内	二冊	脱稿







